今後の景観施策のあり方について

(とりまとめ案)

目 次

第1章 大阪市の景観施策の現状と課題	1
1 大阪市のこれまでの取り組み	1
2 大阪市の景観の現状と課題	2
(1) 風格のある洗練された景観	
(2) 水と緑が豊かな潤いのある景観	
(3) 歴史・文化を受け継ぐ景観	
(4) 多様なにぎわいや活気のある景観	
(5) 一般市街地の生活景	
3 景観施策の課題	5
(1) 施策全体の枠組みの整理・体系化	
(2) 建築物等に対するより詳細な景観誘導	
(3) 景観的な特徴を有する地域等における重点的な景観誘導	
(4) 地域主導の景観まちづくりを支援するための施策の見直し	
(5) 景観に関する市民や事業者の意識啓発のための施策の充実	
(6) 施策展開における様々な専門家の活用	
第2章 大阪市の景観形成の基本的な考え方	8
1 景観形成の目標と基本方針	8
(1) 景観形成に取り組む意義	
(2) 景観形成の目標と基本方針	
2 景観形成の取り組みの方向性	9
(1) 建築物等の誘導と景観まちづくりの推進	
(2) 景観に関する市民や事業者の意識の啓発	
(3) 様々な専門家等と連携した推進体制づくり	
第3章 今後の景観施策の方向性	11
1 建築物等の誘導と景観まちづくりの推進	11
(1) 地域の特性を生かす景観誘導	
(2) 地域との協働による景観まちづくりの推進	
2 景観に関する市民や事業者の意識の啓発	13
3 様々な専門家等と連携した効果的な施策の展開	14
第4章 景観施策の展開に向けて	15
(参考) 都市景観委員会での検討経過	16

第1章 大阪市の景観施策の現状と課題

1 大阪市のこれまでの取り組み

- ・大阪市では、戦前には昭和9年12月に大阪城、大阪駅前、御堂筋、中之島等における都市計画法に基づく旧美観地区の指定を行ったが、これが景観形成に関わる施策導入の始まりである。
- ・その後、昭和57年1月より建築美観誘導制度や御堂筋沿道におけるまちなみの誘導制度による都心部の幹線道路沿道の景観形成を進めてきた他、平成9年4月より景観への影響が特に大きいと考えられる大規模な建築物等について、地域における調和のとれた景観形成のために誘導し、市域全体の景観向上を図ってきている。
- ・また、平成10年9月には大阪市都市景観条例を制定し、景観施策の基本的な枠組みを作ってきた。
- ・さらに、平成18年2月には景観計画の策定により景観法に基づく各種施策を導入するとともに、景観施策の枠組みの見直しを行い、現在に至っている。
- ・一方で、船場建築線の指定や大阪市総合設計制度などによる建築物の誘導、大阪市屋外広告物条例に基づく屋外広告物の規制誘導、風致地区や地区計画等の都市計画制度による面的な市街地誘導など、景観形成に関わる関連施策を進めてきている。
- ・こうした経緯を経て、景観形成に関して法令、条例、要綱などに基づく様々な施策を展開し、良好な市街地景観の形成に一定の成果をあげてきているものの、一部には景観形成上の課題や施策運営上の課題も見られる。

主な景観施策の経緯

昭和9年12月	旧美観地区の指定（大阪城、大阪駅前、御堂筋、中之島、天満橋駅、上本町駅、阿倍野橋駅、難波駅前）
昭和13年12月	旧美観地区の指定（大阪駅前地区の一部追加）
昭和44年	御堂筋沿道（淀屋橋～本町）31mスカイラインの行政指導
昭和57年1月	建築美観誘導制度の策定（なにわ筋、堺筋、国道2号）
平成7年1月	御堂筋沿道建築物まちなみ誘導制度の策定（淀屋橋～中央大通） 建築美観誘導制度の策定（御堂筋）
平成7年6月	建築美観誘導制度の策定（四ツ橋筋、土佐堀通）
平成9年4月	大規模建築物事前協議に景観協議の追加
平成10年9月	大阪市都市景観条例の制定
平成11年2月	大阪市都市景観委員会の設置
平成11年12月	大阪市都市景観条例に基づく「大阪市景観形成基本計画」策定
平成12年6月	都心中央部景観形成地域の指定

平成 13 年 6 月	大川・中之島景観形成地域の指定
平成 14 年 6 月	道頓堀川景観形成地域の指定
平成 15 年 4 月	指定景観形成物の指定（通天閣など 12 件）
平成 16 年 10 月	指定景観形成物の指定（淀屋橋など 10 件）
平成 17 年 9 月	景観法を活用した大阪市の景観施策のあり方に関する提言
平成 18 年 2 月	景観計画の策定
平成 18 年 4 月	景観計画の施行、大阪市都市景観条例の改正
平成 18 年 8 月	景観整備機構の指定
平成 18 年 10 月	景観計画に基づく大規模建築物等の協議・届出の開始
平成 19 年 3 月	大阪市景観形成推進計画の策定
平成 26 年 1 月	御堂筋沿道建築物のデザイン誘導制度の策定

2 大阪市の景観の現状と課題

- ・古来より様々な経緯で市街地が形成されてきた大阪では、それぞれの時代の特徴を残す多様な市街地に、歴史や文化を今に伝える建物やまちなみなどの景観資源が多く継承されてきている。特に都心部では近世以前に構築された城下町としての基盤の上に土地区画整理事業などにより近代的な都市整備が進み、幹線道路沿道や鉄道ターミナル周辺などにおいて大都市らしい風格のある洗練された景観が形成されている。また、古くから水の都として水や緑の豊かな潤いのあるまちなみが人々に親しまれてきた。
- ・一方で、近世以前に起源を持つ繁華街、鉄道駅の周辺等に自然発生的に発達した繁華街、大規模な開発により整備された繁華街など、多くの人々が行き交い、にぎわいや活気を感じさせる境界の景観も大阪らしい景観の特徴の一つとなっている。いわゆる「美しい」「整然とした」景観だけでない多様な印象を持つのが大阪らしい景観とも言える。
- ・現在では市域のほぼ全域が市街化され、居住・業務・生産等の都市の諸活動が活発に行われ、大規模な土地利用の転換や更新の他、高層建築物の建築が活発化し、市域の景観に大きな変化を与える状況が市内各所で見受けられる。こうした状況を踏まえ、大阪らしい景観をより魅力的なものにしていくため、様々な主体と協働した取り組みが求められている。

(1) 風格のある洗練された景観

- ・都心部のターミナル駅周辺や主要な幹線道路沿いなどでは、大都市を象徴する風格のある景観が形成されているところが多くある。また、大規模な面的開発が進められてきた市街地では、高度化された建築物による大都市らしいまちなみが形成されている。特にグランフロントでは洗練されたまちなみが整備されてる一方で、その周辺では派手な屋外広告物が統一感がなく掲出されているな

ど、課題となっている。

- ・都心部の幹線道路の中でも御堂筋は大阪の顔となる風格のある優れた景観が形成され、都市の魅力を高めている。その一方で、一部の区間ではまちなみにそぐわない屋外広告物が掲出されているものもある。
- ・大阪駅の南側などは、大阪の玄関口としての風格や大阪らしいまちなみの特徴づけや演出などが求められている。
- ・都心部の水辺などのエリアにおいて、景観上重要な建築物や橋梁などのライトアップによる演出が図られ、魅力的な夜間景観の形成が進められているが、今後、継続的な実施が望まれる。

(2) 水や緑が豊かな潤いのある景観

- ・古来より水の都と呼ばれた大阪では、都心部を流れる河川などに沿って人々に愛されてきた優れた水辺の景観が数多くある。また、多様な年代にわたって埋め立てられてきた臨海部では、水辺のにぎわい空間の整備が進められ、潤いのある景観が形成されている。
- ・一方、平坦な地形が多い大阪にあって高低差のある地形が特徴的な上町台地では、斜面での立体的な緑のまとまりが、また主要な幹線道路では連続した街路樹による連続した緑の帯が形成され、市街地の景観に潤いを与えている。公園や緑地、水辺などの公共空間に隣接するエリアでは、広告の設置や住居等としてのニーズも高い反面、雑多な印象や生活感が感じられるなど落ち着いた景観を阻害する要因も見られるため、環境と調和した景観誘導が求められる。
- ・中之島界隈は水の都を象徴する潤いのある景観が形成されており、市民や観光客をはじめ内外からの評価も高い。東部では、橋上や対岸からも見える大阪市中央公会堂や大阪府立中之島図書館などの近代建築と水際の緑が水面と調和した落ち着いた景観が特徴であり、象徴的な景観として保全していくことが求められている。西部ではまとまった規模の都市開発が進められ、水辺の新しいまちなみが形成されつつあり、今後も計画的な景観形成が求められている。
- ・都心部の水の回廊を形成する河川では観光船の就航など水都大阪の様々なイベントなども実施され、水辺の魅力ある市街地景観の形成がより必要とされている。
- ・上町台地では大阪城公園や風致地区など、市街地内における貴重なまとまった緑の空間を有し、市街地の背景として潤いのある景観形成に重要な役割を果たしている。
- ・市民へのアンケート調査の結果によると、中之島や道頓堀川の水辺景観、靱公園や中之島公園などの緑豊かな緑地景観の他、大阪城公園なども好きな景観として人気が高い。また、今後の景観づくりでは豊かな水辺を生かしたうるおい

を感じるまちなみづくりをめざすべきとする意見が最も多い。

- ・大規模公園の緑や充実した街路樹が整備された道路に面する敷地では、その特徴を生かし、より緑影濃くすることが望ましい。

(3) 歴史や文化を受け継ぐ景観

- ・大阪の歴史や文化を今に伝える優れた歴史的・文化的資源は、船場周辺や上町台地周辺を初め、市域全体に点在し、深みのある地域景観を生み出している。しかし、建築物の更新などの際の景観形成において十分に保全・活用されているとは言い難い。
- ・都心部の船場界限では、点在する個性的な近代建築などの保全や活用が進められており、大阪の歴史ある業務地を特徴付けるポイント的な要素となっており、今後、これらの資源をより生かした景観形成が求められている。
- ・上町台地では、古代より各時代を通じて人々の生活の営みが積み重なって市街地が形成されてきたことから、高低差のある地形による変化のある眺望とともに、寺社仏閣などの歴史や文化を受け継ぐ景観資源を活用した特徴ある景観を形成していくことが求められている。
- ・市民へのアンケート調査の結果によると、今後の景観づくりで歴史や伝統を感じるまちなみづくりをめざすべきとする意見が多い。

(4) 多様なにぎわいや活気のある景観

- ・地域の商店街や観光地での人々のにぎわい、各種イベントの風景や演出された夜間景観など、様々なにぎわいの風景が大阪ならではの景観において重要な特徴となっている。
- ・しかし、にぎわいに寄与している一方で、雑多・無秩序な印象を生んでいるもとれる建築物、屋外広告物が氾濫するエリアもある。このため、にぎわいの質についてエリアごとに方向性を定め、適切な景観形成を図る必要がある。
- ・道頓堀川沿川などでは、都心部の幹線道路沿道や主要ターミナル周辺などのような整然とした都市的美しさを備えたまちなみとは異なる、多様なにぎわいや活気のあるまちなみが見られ、大阪らしい景観の特徴の一つになっている。
- ・こうしたまちなみは、大阪を代表するイメージの一つとして市民にも人気が高いことから、大阪らしさを生かしながら、不快感を与えない一定の秩序をもったにぎわいのあるまちなみを形成していくことが求められている。
- ・市民へのアンケート調査の結果によると、商店街などの身近な界限性のあるにぎわい景観を好む意見も多い。

(5) 一般市街地の景観

- ・一般市街地の景観では、市民の日常的な暮らしが表出した生き生きとした生活景観が中心となっている。また、市民が愛着を感じる身近な景観資源が地域に分布しており、これらの活用が望まれる。
- ・これらの市街地では、市民や事業者が共有する景観像が必ずしも明確なものとはなっていないこともあり、一部にはパチンコ店や量販店などで周辺から突出する色彩により良好なまちなみを阻害している事例も見られることから、景観の水準を向上していくことが求められている。
- ・市民へのアンケート調査の結果によると、電柱・電線、大きな屋外広告物について良好な都市景観の形成の妨げになっていると感じている人が多い。さらに周辺の景観に悪影響を及ぼしているものとして、遊戯施設の派手な看板や夜間照明を挙げる声も多い。

3 景観施策の課題

- ・大阪市の今後の景観施策のあり方を考えるにあたり、景観施策の課題として以下の内容が挙げられる。

(1) 施策全体の枠組みの整理・体系化

- ・大阪市の景観施策は、景観法に基づくもの、大阪市都市景観条例に基づくもの、要綱に基づくものなどそれぞれの導入経緯をもつ様々な施策がある。また、都市計画法、建築基準法、屋外広告物法などに基づく関連施策もあり、多様な取り組みが進められてきている。
- ・しかし、これらは相互に十分な関連性を持った取り組みとなっているとは言い難いことから、施策の効果をより高めていくためには、総合的・戦略的な観点から景観施策全体の枠組みの整理・体系化が望まれている。
- ・このため、大阪市において景観形成に取り組む意義や目的を改めて明確にした上で、よりわかりやすい目標や方針を設定するとともに、景観施策全体の枠組みの整理・体系化が求められる。

(2) 大規模建築物等に対するよりきめ細やかな景観誘導

- ・景観法に基づく市域全域を対象とした大規模な建築物等の届出制度については、景観形成の方針や基準が全市一律であり、また抽象的な表現が多いことから、十分な誘導ができていない現状も一部に見られる。
- ・また、大規模な建築物と同様に景観への影響が大きい大規模な土木構造物については、大阪市景観条例に基づき事業者により事前協議及び届出を求めることで景観形成への配慮を促してきているが、具体的な指針等がなく、十分な景観誘導

につながっていない面もある。

- ・夜間については、行政として誘導指針を示しておらず、その場所にふさわしい夜間景観の形成を誘導していくことが求められる。
- ・さらに、地域の景観を特徴付ける景観構成要素となっている建造物や樹木を維持・保全するための、景観法に基づく景観重要建造物及び景観重要樹木の制度については活用がなされていない。
- ・市域全域での市街地景観の水準を高めるため、地域特性に応じたよりきめ細やかな誘導を行っていくことが求められる。

(3) 戦略的な位置づけがある地域等における重点的な景観誘導

- ・景観法施行前より大阪市都市景観条例に基づき、景観的なまとまりをもった一定の地域を景観形成地域に指定し、景観形成の目標と基本的な方針を定めているが、誘導のための基準がないこともあり十分な効果が表れているとは言い難い。
- ・都心部の主要な街路沿いについては建築美観誘導制度により、一定の成果を上げているものの、場所によっては実態と基準の乖離も生じており、屋外広告物についても単体での設置や更新等の場合に十分な誘導ができていないことや、施策間の不整合などの状況も見られることから、実態を踏まえた改善が必要になっている。
- ・さらに、景観上重要な公共施設の景観形成を図るための、景観法に基づく景観重要公共施設の制度についても活用がなされていない。
- ・このような状況であり、都市再生などの都市戦略上の位置づけがある地域のうち、景観誘導施策の実績のある地域や開発動向がある地域など景観誘導の効果が期待できる地域について、各種の制度を活用しながら、それぞれの特性を生かした重点的な景観誘導を図っていくことが求められる。
- ・また、屋外広告物に対する景観誘導に関しては、屋外広告物条例等他施策との連携を図ることにより、法的拘束力を持たせ、基準等の担保性をより高めていく必要がある。

(4) 地域主導の景観まちづくりを支援するための施策の見直し

- ・地域主導の景観まちづくりにかかる自主的なルールを定める制度として景観法に基づく景観協定及び大阪市都市景観条例に基づく市民景観協約があり、前者については心齋橋筋地区において認可されているものの、後者については実績がない。
- ・また、景観施策以外においてもまちづくり活動支援制度や HOPE ゾーン事業などにより地域のまちづくり活動などに対する支援を行っているものの、景観

施策との連動が十分でない。

- ・一方で市民へのアンケート調査の結果によると、8割以上が景観まちづくりに関する地域独自のルール作りが必要と考えており、これらを支援するための制度をより充実したものとしていくことが求められる。

(5) 景観に関する市民や事業者の意識啓発のための施策の充実

- ・市民公募により、地域の景観を特徴づける建造物、橋梁、樹木等を都市景観資源として登録し、一部まち歩き等に活用されているが、さらなる景観形成への具体的な活用や景観に関する市民の意識啓発への活用が求められている。
- ・また、景観に関する市民や事業者の意識啓発に関しては、これまで必ずしも十分な取り組みが行われてきたとは言い難い。
- ・このため、これまでの意識啓発に資する取り組みを継承・発展させるとともに、より幅広い施策展開を図っていくことが求められる。

(6) 施策展開における様々な専門家の活用

- ・景観の保全・整備能力を有する一般社団法人 大阪府建築士事務所協会、公益社団法人 大阪府建築士会、一般財団法人 大阪スポーツみどり財団を景観整備機構に指定している。
- ・夜間景観については、官民一体となって光のまちづくり推進委員会を組織し、橋梁などの公共施設のライトアップの実施やガイドラインの作成など、光のまちづくりに向け取り組んでいる。
- ・窓口での事前協議においては職員単独では判断に窮する事例も多いことから、今後の景観施策の展開においては、これらの関係組織を更に活用するとともに、様々な専門家とも連携しながら、総合的な展開を図っていくことが求められる。

第2章 大阪市の景観形成の基本的な考え方

1 景観形成の目標と基本方針

- ・全国的な都市間競争が激化する時代にあって、都市の魅力の向上をめざした景観施策の展開にあたっては、景観形成に取り組む意義や目的を明確にした上で、より具体的でわかりやすい景観形成の目標や方針を設定することが必要である。

(1) 景観形成に取り組む意義

- ・景観形成に取り組む意義としては以下のような事項が考えられる。

①都市格の向上

- ・都市の顔となる空間の象徴的な景観形成に取り組むことにより、大都市としての風格を高める。

②観光や交流の活性化による都市の活力の創出

- ・地域の持つ様々な特徴を生かした景観形成に取り組むことにより都市の魅力を高め、観光や交流の活性化による活力の創出を促進する。

③地域への愛着や誇りの醸成による地域の個性の創出

- ・人々の景観への意識を高め、主体的な景観形成を促進することにより、地域に対する愛着や誇りを醸成し、個性あるまちづくりを促進する。

④豊かな生活環境の形成

- ・身近な都市空間の景観形成に取り組むことにより、日常の生活空間の魅力を高め、潤いのある豊かな生活環境の形成を促進する。

- ・これらの意義については、市民や事業者と共有しながら景観形成を図っていくことが重要である。

(2) 景観形成の目標と基本方針

- ・景観形成の目標は、大阪の景観特性や大阪らしい景観の特徴、前項の景観形成の意義を踏まえ、現行の目標の基本的な考え方を継承しながら、より具体的な内容としていくことが必要である。風格のある洗練された景観、水や緑が豊かな潤いのある景観、歴史や文化を受け継ぐ景観、多様なにぎわいや活気のある景観といった様々な印象がある大阪の景観を支えている多様な市民との協働により、大阪らしい景観をより魅力的なものにしていくことを景観形成の目標とするべきである。
- ・景観形成の基本方針は、現行の方針の基本的な考え方を継承しながら、景観形成の目標を実現していくためのより具体的な内容としていくことが必要である。市域全域での心地よい市街地景観の形成と、大阪の特徴的な景観のテーマ

に沿った地域特性を生かした景観形成を、市民や事業者との協働による景観形成を推進していくことを景観形成の基本方針とするべきである。

2 景観形成の取り組みの方向性

- ・景観形成に関わるこれまでの取り組みや景観の現状と課題を踏まえ、景観形成の目標と基本方針に沿って、以下の方向性により景観形成の取り組みを展開していくことが望ましい。
- ・なお、平成 17 年に制度廃止された美観地区については、それまでの営みや取り組みを継承する方向で、建築美観誘導制度や御堂筋デザインガイドランによるまちなみ誘導や景観形成地域における景観形成方針を踏まえた建築物等の誘導などに、美観地区指定の精神を継承してきたことを踏まえ、取り組みの方向性について検討していくことが望ましい。

(1) 建築物等の誘導と景観まちづくりの推進

- ・主となる景観形成の取り組みとして、建築物等の誘導と景観まちづくりの推進を図っていくべきである。

①地域の特性を生かした建築物等の誘導

- ・市街地の景観に与える影響が大きい大規模な建築物や土木構造物については、景観構造を踏まえた景観特性に応じ、市域全域においてこれまで以上にきめ細やかな誘導を行っていくべきである。
- ・都市の顔となる市街地や、水と緑が豊かな潤いのある市街地など、特徴的な景観を有する地域においては、地域の特性を生かした重点的な景観形成を公民がともに推進することにより、景観の魅力を高めていくべきである。
- ・大規模な面的整備地区では、計画的かつ一体的に景観形成を進めるため、引き続き検討書の作成を求め協議を行っていくべきである。
- ・重点的な景観形成を図っていく地区では、景観の核となっている道路・公園・河川等の公共施設とその周辺建築物等とを一体として良好な景観形成を図っていくべきである。
- ・市域内に点在する地域の景観上重要な建造物や樹木については、地域景観の核として保全・継承しながら、個性的な景観形成に活用していくべきである。
- ・地域特性に応じた夜間景観の形成を誘導していく他、特に重点的な景観形成を図っていく地区では公共施設等のライトアップによる演出を図っていくべきである。

②地域との協働による景観まちづくりの推進

- ・市域の各地で景観形成に関わる地域主導のまちづくりの取り組みが進められてきているが、こうした取り組みをより促進していくため、景観まちづくり活動への支援を行っていくべきである。
- ・地域の景観形成に関わりのある様々な関係者が協議・調整を図り、良好な景観形成のための取り組みを進めていくべきである。

(2) 景観に関する市民や事業者の意識の啓発

- ・主となる景観形成の取り組みを促進し、より効果を高めるため、良好な景観形成に関する市民や事業者の理解を深め、協働による取り組みの促進をめざし、様々な機会をとらえて景観に関する意識の啓発を行っていくべきである

(3) 様々な専門家等と連携した推進体制づくり

- ・景観形成の取り組みを推進するため、景観、建築、都市計画をはじめ、景観形成に関連する様々な分野、立場の専門家と連携しながら、幅広い観点から施策を総合的に展開していくための体制を整備していくべきである。

第3章 今後の景観施策の方向性

1 建築物等の誘導と景観まちづくりの推進

- ・景観法の活用を軸としながら、大阪市都市景観条例や各種要綱等でそれを補い、また他分野の施策との連携をより強化するなどにより、建築物等の誘導と景観まちづくりの推進を図っていくべきである。

(1) 地域の特性を生かす景観誘導

①建築物等の景観誘導

[景観特性に応じた大規模建築物等の景観誘導]

- ・景観計画の充実にあたっては、景観構造の特性を踏まえた市域の景観特性に応じて、よりきめ細やかな建築物の規制誘導が行えるよう、景観計画区域を細分化するとともに対象となる行為、景観形成の方針、基準等を詳細化することが望ましい。
- ・高架道路・鉄道、橋梁、護岸等の大規模土木構造物は、大規模建築物等と同様に市域の景観形成に与える影響が大きいため、景観計画に位置付け、景観法に基づく届出を要する対象行為とするべきである。

[戦略的な位置づけがある地区における重点的な景観誘導]

- ・開発行為の動向がある、都市再生の戦略的な位置づけがあるなど景観誘導の効果が期待できる地区については、重点的な景観誘導を図る地区に位置づけ、地域戦略や、誰を対象とする景観形成なのか、めざすべき景観形成方針等を明確にしたうえで、届出対象行為や誘導基準をより特性に応じたものとして定めるなど、一般の景観計画区域よりもきめ細やかな景観誘導を行うべきである。
- ・また、自主的な景観規制が可能な地域においては、自主規制にかかる提案や、それら取り組みを認定するなど地域と連携した取り組みを進めることが望ましい。
- ・なお、地域主導の景観まちづくりの動向があるエリアについては、景観まちづくり活動に対する支援を行い、地域の取り組みを促進することが望ましい。

②屋外広告物の規制誘導

- ・特に重点的に良好な景観形成を図っていく地区においては、屋外広告物の適切な規制誘導が不可欠であることから、関係部局と協議・調整しながら、景観計画と連携した屋外広告物規制のあり方を検討するべきである。
- ・その際には、屋外広告物条例に基づく制度との整理・整合を図るとともに、一体的な運用ができる方策についても検討するべきである。

③公共施設の景観形成

- ・特に重点的に良好な景観形成を図っていく地区においては、景観の核として親しまれている道路・公園・河川等の公共施設を景観計画に景観法に基づく景観重要公共施設として定め、地区内の建築物等と一体的に良好な景観形成を図ることが望ましい。

④景観上重要な建造物や樹木の保全

- ・市域内に点在する都市景観資源や歴史性のある建築物など、地域の景観上重要な建造物や樹木については、景観法に基づく制度も活用しながら、地域景観の核として保全・継承を図るとともに、その情報の発信に努め、個性的な景観形成に活用することが必要である。
- ・景観法の基づく景観重要建造物又は景観重要樹木は、景観計画においてそれらの指定方針を、「歴史的又は文化的に価値が高いと認められる建造物・樹木」かつ、「地域の景観を先導し又は継承し特徴づけている建造物・樹木」としているが、指定に向けた具体的な選定方法や手続きについて検討していくことが必要である。

⑤大規模面的整備地区での景観誘導

- ・市街地再開発事業等、敷地と建築物を一体的に整備する大規模面的整備地区では、計画的かつ一体的に景観形成を進めることが有効なことから、引き続き、大阪市都市景観条例に基づき検討書の作成を求め、事前協議を行うことにより効果的な景観誘導を図っていくべきである。

⑥夜間景観の形成

- ・地域の特性に応じた夜間景観の形成を誘導していくとともに、特に重点的な景観形成を図っていく地区においては、他の施策と連携しながら公共施設等のライトアップなどによる演出を図っていくことが望ましい。

(2) 地域との協働による景観まちづくりの推進

①地域主導の景観まちづくりの支援

- ・地域の魅力を生かし、人々に愛され親しまれる大阪市の景観形成を実現していくため、都心や拠点地区での風格と魅力のある都市景観の形成と併せて、市域に点在する様々な個性と特色ある地域の景観特性を踏まえた、市民が主体となった身近な景観形成に向け、それぞれの取り組みを促進し、支援していくことが求められる。
- ・このため、まちづくり活動支援制度とも連携しながら、地域主導の景観形成に関わる取り組みを支援し、促進する仕組みづくりを検討することが望ましい。
- ・具体的には、地域の個性ある景観形成の目標・方針やルールを対外的に意思

表示できる仕組みとして、都市景観条例に基づく市民景観協約制度をより実効性のあるものへと見直すことが考えられる。

- ・上記に合わせ、まちづくり支援制度等とも連携しながら、普及・啓発や情報提供、技術的支援等、必要な措置を講じることが必要である。
- ・また、一定の合意形成が進み景観形成に対する意識が醸成された地域においては、景観法に基づく景観協定の締結の他、地区計画や建築協定など、より担保性の高い制度の活用へつなげていくことが望ましい。
- ・なお、取り組みを継続させていくためには、インセンティブを用意することが重要であり、また適正な活動が継続されているかについて、エリアマネジメントの取り組みも含めてチェックする仕組みも必要である。

②関係者による協議の仕組み

- ・地域の景観形成に関わりのある様々な関係者が協議・調整を図り、良好な景観形成のための取り決めや仕組みづくりを進めるため、景観法に基づく景観協議会の制度を活用することが望ましい。

2 景観に関する市民や事業者の意識の啓発

- ・景観形成の担い手である市民や事業者の景観に対する意識を高めていくため、様々な機会をとらえて啓発を行っていくべきである。

①都市景観資源の活用

- ・都市景観条例に基づく都市景観資源については、これまで区ごとに登録を進めてきているが、全区において登録が終わった後は、都市景観資源のPRなど周知をこれまで以上に進めるとともに、景観形成に具体的に活用していくための方策を検討していくことが望ましい。

②大阪都市景観建築賞（愛称 大阪まちなみ賞）

- ・大阪市・大阪府・公益社団法人 大阪府建築士会・一般社団法人 大阪府建築士事務所協会・公益社団法人 日本建築家協会近畿支部・一般社団法人 日本建築協会の共催で実施している大阪都市景観建築賞（愛称 大阪まちなみ賞）については、新たに景観を形成する景観上特に優れた建物やまちなみを表彰し、美しく個性と風格のある景観づくりを普及・啓発するための効果的な制度であり、着実に実績を積み上げてきているため、今後も6者が連携しながら継続すべきである。

③その他の啓発施策の展開

- ・市民や事業者が身近な市街地のまちなみに目を向け、景観形成に関心を持つきっかけとなるイベントの開催や、基礎的な知識を学習する講座等の取り組みの他、意識啓発につながる市民の活動を支援するなど、幅広い取り

組みを検討していくことが必要である。

3 様々な専門家等と連携した効果的な施策の展開

- ・ 景観施策を効果的に展開していくため、行政だけではなく様々な専門家と連携した取り組みを進めていくことが望ましい。

①大阪市都市景観委員会及びその他の専門家の活用

- ・ 市民や事業者からの高度な要求にも柔軟に対応し、大阪市の景観施策を的確かつ効果的に実施・運用していくため、専門家の活用により、景観協議におけるアドバイスを求める仕組みや、事業者がアドバイスを受けることができる仕組みを検討していくべきである。

②景観整備機構の活動の充実

- ・ 民間活力を活用し、行政と役割分担しながら、景観まちづくりの支援や都市景観資源の活用、景観重要建造物・樹木の管理に関する事など、具体的な景観形成の推進に寄与する取り組みを進めていくため、景観法に基づく景観整備機構を活用することが望ましい。

第4章 景観施策の展開に向けて

- ・大阪市における今後の景観施策は、以下の点に配慮しながら展開していくべきである。

①景観施策の進捗管理

- ・景観施策の成果や効果を把握しながら施策の評価を行うとともに、必要に応じ、適宜見直しを行うなど、PDCAサイクルに基づき施策の進捗管理を行っていくことが求められる。

②人々の価値観や社会情勢に応じた柔軟な施策の展開

- ・景観形成は都市の景観に関わる人々の価値観や、都市開発・建築活動に関わる社会情勢などとも関わりが深いことから、これらの変化にも対応しながら、適宜、景観計画を見直すなど柔軟な展開を行っていくことが求められる。

(参考) 都市景観委員会と景観法活用検討部会の検討経過

平成 26 年 3 月 28 日 第 39 回委員会

- ・「デザイン性の高い（デジタルサイネージ含む）屋外広告物によるまちなみの魅力向上に向けた検討」のとりまとめに際し、委員会より建築美観誘導制度全体のあり方の検討を進めていくべきであると問題提起

10 月 10 日 第 41 回委員会

- ・今後の景観施策の展開の方向について（景観形成に関わる施策の振り返り、施策の実績と課題、今後の景観施策の展開にあたって検討が必要な課題及び今後の施策展開の方向性のイメージ等）

12 月 19 日 「今後の景観施策のあり方について」諮問

同日 第 42 回委員会

- ・本市景観施策の実績と検証について

平成 27 年 1 月 28 日 現地調査（大阪駅周辺・御堂筋・堺筋・夕陽丘周辺等）

2 月 9 日 現地調査（国道 2 号・なにわ筋・四ツ橋筋・土佐堀通・中之島等）

5 月 26 日 第 43 回委員会

- ・景観形成の目的と施策展開の方向について
- ・まちなみの分析

6 月 26 日～7 月 6 日 市政モニターアンケートの実施

8 月 3 日 第 44 回委員会

- ・景観構造、景観形成の取り組みの方向性と方針について

10 月 21 日 第 45 回委員会

- ・市全域での心地よい市街地景観の形成（景観計画区域の細分化による景観誘導）や地域の特性を生かした重点的な景観形成（重点届出区域の指定による景観誘導）について

平成 28 年 1 月 18 日 第 46 回委員会

- ・景観形成区域の設定及び景観形成方針、景観重要公共施設（整備に関する事項、占用許可基準）、景観重要建造物・樹木の指定基準、景観アドバイザー制度の導入について

3 月**日 第 47 回委員会

（予定）・「今後の景観施策のあり方について」とりまとめ

- ・答申案を踏まえた「景観計画改正骨子案」及び「都市景観条例改正骨子案」について